

専門学校生「青パト」で出動



高校生に声をかける瓦吹直暉さん＝古河市

古河で毎週金曜に活動

古河市の専門学校生が今年度から、青い回転灯をつけた「青パト」に乗って、市内の見回り活動をしている。高齢化で地域の見守り体制が揺らぐなか、県内初の取り組みとして注目を集めている。

14日夕、専門学校生を乗せた青パト「ブルーファルコン」が、教員の運転で学校前を出発。低速で進み、JR古河駅や小学校付近のスクールゾーンのほか、細い路地にも目を配る。暗く

なっても外で遊ぶ小学生がいたり、瓦吹直暉さん(19)が「気をつけて帰って下さい」と声をかけた。「地域の人とコミュニケーションを取るなかで、気づくことも多い。犯罪が起きにくい

地域高齢化 若者に期待

街づくりに貢献していきなさい」と話す。活動に携わるのは、古河市の日本危機管理専門学校と晃陽看護栄養専門学校で警察官や消防士などをめざす学生たち。県警が配信している防犯メールの情報などを基に、毎週金曜に1時間ほど活動する。路上のゴミを見つけたら拾い、赤信号を無視した人がいれば注意する。

6月に古河署と防犯に関する連携協定を締結。古河署員から活動の心構えを学んだ。パトロールで気づいた点は報告書にまとめ、定期的に署に報告している。石川久副署長は「高齢者が多いなかで若者が活動してくれば、地域活性化にもつながる。積極的に連携を強めていきたい」と話す。

県警によると、県内では9月末現在、211団体1089台の青パトが登録されている。大学・専門学校の登録は「ブルーファルコン」のみという。県内の65歳以上の高齢者は総人口の3割近くを占める80万人にのぼり、過去最多となっている。(箱谷真司)



本日の編集長＝立松朗
電話03-3545-0131 www.asahi.com

©朝日新聞社 2016年

2016年(平成28年)

10月21日
金曜日